

第3次 淀川区生涯学習推進計画 案(概要) 日 まなびあい ふれあい つながっていく 淀川区 ~□

大阪市の「第3次 生涯学習大阪計画」及び第2次の淀川区生涯学習計画に基づく取組実績を踏まえつつ、淀川区の特性などを盛り込んだ新たな淀川区オリジナルの生涯学習計画を策定します(計画期間2020年度まで)。

めざす姿・方向性 ~ 4本柱 ~	【これまでの取組・現状など】	【現状の課題】	【課題を踏まえたこれからの取り組み】	【2020年度に向けた目標】
<p>1 生涯学習を通じた教育コミュニティづくり【継続】</p> <p>地域ぐるみで子どもを育ていく「教育コミュニティ」づくりの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> 淀川区は「教育コミュニティづくり」(※1)を推進するため、生涯学習ルーム事業(※2)、はぐくみネット事業(※3)、学校体育施設開放事業(※4)を中心に、各種生涯学習事業に重点的に取り組んできた。この間、生涯学習ルームでの教育コミュニティづくりに資する講座の割合が9割を超えるまでになっている。 学校図書館では、小学生の読書活動を支援するため図書充実を図ったことに加え、新たに配置された図書館補助員と地域のボランティアの協力によって開館回数的大幅増加や活発な読み聞かせ活動が行われるなど、魅力ある図書館づくりが進められつつある。 また、ボランティア主体の手づくりイベント「ものがたりのちから」展は毎年多くの来場者に絵本の魅力を伝えており、今では淀川区の特色あるイベントとして浸透しつつある。 学校体育施設開放事業では、従来の利用団体に加え、新たに参入を希望する活動団体にも公平に利用いただけるよう、制度の見直しを図るなど運用の改善に努めてきた。 これらの取組によって、子どもをはじめとする若い世代から高齢者までより多くの区民が生涯学習に参加しやすい環境が整いつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> 従来、生涯学習に関わりの薄かった若い層が積極的に参加しやすくなるような魅力的な講座となるよう内容の充実を図る。また、受講者のニーズと開設講座とのミスマッチの解消にも併せて取り組む必要がある。 教育コミュニティに関わりの深いPTAや地域の方を中心に、区民の方々が日常の中で自然に生涯学習に触れられる機会の創出やその楽しさを感じてもらえる工夫が必要である。そうすることで、新たに生涯学習に積極的に関わる層の拡大につなげていくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習ルームの講座の継続的な見直し・拡充を図るとともに、小中学校図書館や特別教室、体育施設等の活用を通じて学校を拠点とした子どもをはじめとする若い世代から高齢者まで幅広い層を対象に学習機会やものづくり・スポーツ体験の充実を図る。【拡充】 ニーズ調査等により他では経験できない独自のメニューの提供や実施時間・場所を工夫するなど、ミスマッチの解消に向けた多くの選択肢のある生涯学習ルーム講座の充実を図る。【拡充】 学校体育施設開放事業への新たな参入が妨げられないよう、公正透明な運営を引き続き確保していく。【継続】 PTAや地域に身近な団体との連携に取り組むなど、新たなチャレンジを通して生涯学習への参加層の拡大に繋げていく。【新規】 	<ul style="list-style-type: none"> 教育コミュニティづくりに関わった団体数を、2017年度に対して3団体増やす 教育コミュニティづくりを意識した生涯学習ルーム講座の全講座に占める割合90%以上を維持する
<p>2 必要な人に届く生涯学習【新規】</p> <p>生涯学習に関する情報を必要としている人に適切に情報を届ける仕組みづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習に関する情報(取組・問合せ窓口等)を見やすい一覧表に整理するとともに、これまでの区や地域の広報誌に加え、区ホームページやTwitter、FacebookなどのSNSなどICTを活用した広報の充実に取り組んでいる。 各地域の特性を生かしたバラエティ豊かな講座も多くなりつつあるなど、多くの選択肢のある生涯学習環境ができつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した広報等、手段が多様化する一方で従来の紙媒体からの情報入手を主な手段としている方も多い。そのため、生涯学習へ参加を希望するすべての方に確実に情報が届くよう、より効果的な広報手段について再考の必要がある。 現在、生涯学習に関心や関わりを持たない方に対しても、新たに関心をもていただくきっかけになる魅力的なイベントや情報発信など工夫が必要である。 様々な生涯学習関連機関との連携をさらに強化し、新たな取組にもチャレンジしていくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 区役所が生涯学習の支援拠点として、関連する各種情報を集約することにより「生涯学習データバンク」としての機能を果たす。そのために、各地域や生涯学習関連施設などとの連携を強化し、より効果的な情報発信に繋げていく。【拡充】 ニーズの多い紙媒体の広報の有効活用を図るため、区役所が地域や生涯学習関連施設の生涯学習関係の情報を集約し、情報誌として発行する。【拡充】 生涯学習に興味のある方向けのニーズに沿った体験会や視察を実施し、あわせてその取組を広く情報発信する。【拡充】 ポスター掲示やちらし配布についても、ターゲット層を明確にするなど、戦略的な掲示・配布を行っていく。【拡充】 	<ul style="list-style-type: none"> 区民アンケートで、生涯学習に関する必要な情報が得られる又は届いていると感じる区民の割合:70%以上
<p>3 市民力(※5)を育む生涯学習の推進【継続】</p> <p>担い手自らが課題を自分たちで解決する力を発揮できる仕組みづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> 淀川区の生涯学習は、高い志をもって活動していただいている生涯学習推進員(※6)やボランティアなど多くの方々に支えられ、今日に至っている。 区役所ではこれに応えるため、情報交換会の開催や生涯学習推進員連絡会の支援、教育委員会が主催する生涯学習推進員養成講座への派遣など、生涯学習の担い手の育成に力を入れている。 また、運営を担っている方々の事務負担の軽減を図るため、区役所に提出する書類の簡素化や各種相談にも丁寧な対応に努めてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「まだまだ慢性的に担い手が不足している」との声や、事業を安定的に継続していくこと、さらに、今後益々多様化するニーズに応じていくためにも、担い手の確保や育成の拡充が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 集客力のあるイベント(防災・読書等)を活用して、生涯学習の魅力を広く紹介するなど、誰でも自然に生涯学習に触れられる機会を創出する。【拡充】 生涯学習ルームの講座など様々な機会を捉えて、新たな担い手の発掘に努めるとともに、生涯学習推進員連絡会などを活用して、生涯学習のスキルアップにつながるような機会を設ける。【拡充】 各地域との委託業務に関して事務負担のさらなる軽減に努め、担い手の確保につなげていく。【拡充】 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな担い手発掘につながる、生涯学習のイベント等の参加者を2017年度に対して5%増やす 生涯学習の担い手に対するアンケートで、生涯学習を通じて地域課題の解決につながるような取組ができたと感じる方の割合:70%以上
<p>4 「ひと」「まち」「まなび」をつなぐ多様なネットワークづくり【継続】</p> <p>「まなび」を通じて「ひととのつながり」「まちの魅力」を発見し、それらをつなげることで、生涯学習社会をつくりあげていく</p>	<ul style="list-style-type: none"> 淀川河川敷の自然や各種の生涯学習関連施設、各地域や団体独自の取組など、淀川区は生涯学習にとって有形・無形の多くの豊かな資源に恵まれている。 「まち歩き」や「各種イベント」などを通じて、淀川区の魅力の発掘や再発見につなげてきた。(例えば、生涯学習に新たな参加者を呼び込むために「淀川区生涯学習フェスティバル」の毎年度開催など) 	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習という「まなび」を通じて得られた「ひととのつながり」や「まちの魅力」といった区民の財産を、どのように社会全体に還元・循環させていくかが課題である。 また、その実現後も、生涯学習を継続的に発展・充実させていく仕組みが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習に取り組んでいる既存の活動団体・個人にとどまらず、新たに参入を希望する団体・個人についても、ネットワーク化に取り組む。【拡充】 現行事業や各種イベント等も活用しながら、その場にいる人々や団体が交流し、新たな事業を創出するためのきっかけづくりの場へと発展させていく。【拡充】 産学官連携など、これまでつながりが薄かった分野間での連携にも新たにチャレンジしていく。【新規】 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな連携に向けたプロジェクトを、2件以上立ち上げる

(※1)教育コミュニティ:地域社会の共有財産である学校を核として地域社会の中で様々な人々が継続的に子どもに関わるシステムをつくり、学校教育や地域活動に参加することで、

子どもの健全な成長発達を促していこうとするもの。学校・家庭・地域社会の協働をめざすもの。

(※2)生涯学習ルーム事業:小中学校の特別教室等を活用して、文化活動や身近な講座を開催するなど生涯学習を推進するもの。

(※3)はぐくみネット事業:学校・家庭・地域が一体となって子どもたちが生きる力をはぐくむための教育コミュニティづくりを推進するもの。

(※4)学校体育施設開放事業:小中学校の体育施設を利用して、スポーツ活動の場や機会を提供するもの。

(※5)市民力:地域での困ったことなどを、周りの人たちと協力しながら、自分たちの力で解決していける力、また、新しいことにチャレンジする力のこと。

(※6)生涯学習推進員:地域での生涯学習を推進するため、市民の学習活動を側面から援助するコーディネーターとしての役割を果たす市民ボランティア